

地理学教室便り（2014年度）

本誌「お茶の水地理」は52号より、地理学教室教員が編集を担当し、毎年刊行としてきましたが、OGからなる同窓会と、現教員を中心とする地理学教室の共同の発表の場として、これからも紙面が構成されていくことになります。毎回この教室便りの欄で、本学の教育・研究コレクションTeaPotを紹介していますが、そこでバックナンバーをすべて読むことができます（URL <http://www.lib.ocha.ac.jp/oab/26chiri/listOfIssue.html>）。現在でも本誌の新旧の論文、卒論・修論要旨等の中で、ときどきTeaPot月間・週間のダウンロード・ランキングに載るものがあります。

2014年度の地理学教室の構成員を紹介します。専任教員は、これまでと同様、学部地理学コースに水野(主任)、宮澤、長谷川の3名が、そしてグローバル文化学環に熊谷がそれぞれ在籍しています。大学院博士前期課程ジェンダー社会科学専攻地理環境学コースでは、専任教員として熊谷、水野、宮澤(代表)、長谷川の4名が、そして兼任教員として開発・ジェンダー論コースの小林教授(国際関係論)、荒木准教授(開発研究、アフリカ地域研究)が、教育・研究指導を担当しています。これら6名の教員は全員、大学院博士後期課程ジェンダー学際研究専攻の教員です。熊谷は、2013～2014年度に、ジェンダー社会科学専攻長を務めました。なお2013年11月の菅平高原における実習中に腕の大けがを負った長谷川は、この間の手術とリハビリテーションによって、現在では、大学の教育・研究にほぼ支障なく活動できるほどに回復しました。地理学教室事務室のアカデミック・アシスタントは、前期には倉本さん、中嶋さん、古橋さん、後期には古野さん、須藤さんが担当しました。お茶の水地理学会事務局は、土屋さん、須野原さんが担当しました。

2014年度の非常勤講師の先生方は、以下の通りです。学部のコア科目・LA(リベラルアーツ)において、大八木麻希、鈴木智恵子、吉岡由希子、伊藤修一(以上、情報処理演習)の各先生方、地理学コースの専門科目では、佐々木リディア(地理学英書講読)、中條曉仁(社会地理学)、齋藤元子(文化地理学)、谷口智雅(自然地理学、自然地理学演習I)、小堀昇(地図学)、中山大地(測量学)、戸田真夏(環境地理学基礎演習)、兼重賢太郎(地域分析学演習I)、廣松 悟(社会地理学演習I)、井上 孝(地理環境学演習IV)、今野絵奈、片柳 勉、山近久美子、小田隆史(以上、地理学フィールドワークB)、

大学院では田原裕子(環境文化論演習)の各先生方に担当していただきました。講師の先生方には、この場を借りてお礼申し上げます。

学部地理学コースの学生は、2年生が7名、3年生が15名、4年生が9名でした。進学者数が年度によって上下しますが、10名前後で推移しています。また3年前から本学が行っている複数プログラム選択履修制度という新しいカリキュラムでは、地理環境学副プログラム(他のコースを主としつつも、副専攻として地理学のショートプログラムを選ぶ)の学生が、2013年度2名、2014年度2名、2015年度7名と若干増えつつあります。また本学が短期、長期の海外留学を促進していることもあり、本コースでも2名が長期留学から帰国(ドイツ、アメリカ)、2名が長期留学で出国(中国、フィンランド)しました。夏季短期留学についても、海外で勉強してきた学生が何人かいます。学部地理学コースでは、海外提携校への長期留学と地理学コースの必修科目の履修調整を行い、4年間で卒業できる履修モデルを開発し、留学しやすい教育環境を作りました。今年度卒業した9名の学生の進路は、民間企業(5名)、公務員(2名)、未定(2名)でした。大学院博士前期課程では4名が、博士後期課程では1名が新たに入学し、院生数は全部で17名でした。博士前期課程の修了者は今年度4名で、民間企業、公務員、教員、本学博士後期課程進学でした。また博士後期課程では、山田真美さん、李小妹さんが課程博士論文を提出し、9月修了となりました(博士論文要旨は、本誌掲載)。また三原昌巳さんは、本学大学院人間文化創成科学研究科研究院研究員として、引き続き研究活動を行っています。

地理学教室教員が2014年度に参加した主な教育研究プロジェクトには、グローバル文化学環の「地域研究実習」および大学院地理環境学コースの「地理環境学実習」として、熊谷が陸前高田市にて2014年8月に学生・院生を引率して実習を行い、その報告会が2015年3月に開かれました。また2014年7月にはNazgol Bagheriテキサス大学地理学教室助教授を招いて、「テヘランの公共空間における女性のマッピング—ジオビジュアライゼーションの視点」と題するセミナーを開催しました。全学震災復興支援プロジェクトチームとして、水野は教育科学、保育児童学、附属学校の先生方とともに、2014年12月、2015年2月に学修ボランティアと実地視察を行いました。こ

これらの実習やボランティアについては、その一部を大学公式HP（グローバル文化学環HP，お茶大ニュースほか）で知ることができます。これら以外に、教員それぞれが科学研究費を代表・分担で獲得しており、その内容については本学公式HPの「学部・大学院」→「研究者情報」をご覧ください。

また地理学コース2・3年生有志からなるチームocha*geoが「大学生観光まちづくりコンテスト2014 東日本ステージ」のポスターセッション参加チームに選ばれて、2014年9月16日に勝山ふれあいセンター（山梨県富士河口湖町）でプレゼンテーションを行いました。さらに、大学院博士前期課程地理環境学コース 小林加奈さん、若山沙織さん、同後期課程 三浦尚子さんによる記事が雑誌「地図中心」（日本地図センター刊行）2014年8月号に掲載されました。

最後に、2014年度に実施した巡検の一覧と、教室構成員が公表した主な研究成果一覧を掲載します。8月に実施した東京下町の巡検の内容については、本誌の巡検報告をご覧ください。

構成員一同、地理学の教育・研究にこれからも着実に努力していく所存です。本誌のさらなる愛読と、これからもご指導・ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

（2014年度学部地理学コース主任 水野 勲）

2014年度実施の一日巡検・大巡検（一覧）

- 4月 御茶ノ水（水野）
一日巡検の事前授業（水野）
- 5月 成城・田園調布（宮澤）
砺波（水野）
- 6月 藤沢（今野）
妻沼（片柳）
- 7月 横須賀（山近）
- 8月 東京下町（大巡検，水野）
- 10月 多摩ニュータウン（宮澤）
- 11月 吉祥寺（水野）
- 12月 インド人街（小田）
気仙沼（水野）
エコプロ（長谷川）
- 2月 川越（長谷川）
- 3月 真壁ひなまつり（長谷川）

（以上の他に、グローバル文化学環が実施する巡検があり、地理学コースとの間で巡検履修の相互乗り入れをしています）

2014年度に公表した主な研究成果（一覧）

執筆物

Arakaki, M. 2014. Jimbun, yuimaru and bu (wisdom, spirit of cooperative efforts and local community): Women's role in Okinawa's endogenous development after reversion to Japanese administration. In *Building global networks through local sensitivities: Japanese researchers' contribution to gender and geography*, ed. K. Kumagai and Y. Yshida, 91-102. Tokyo: Ochanomizu University.

石上 和 2014. 大都市の製造業における異業種連携の取組みに関する研究—東京都墨田区の「ものづくりコラボレーション事業」を事例に. お茶の水地理 53: 11-19.

Oikawa, Y. 2014. Does "art" recreate place of commons or space of new order?: "Bokuto-machimise" project and recent urban rehabilitation at inner-city Tokyo. In *Building global networks through local sensitivities: Japanese researchers' contribution to gender and geography*, ed. K. Kumagai and Y. Yshida, 9-16. Tokyo: Ochanomizu University.

Kushima, M. 2014. Dwelling and gender: Focusing on the weaving princess training programme in Japan. In *Building global networks through local sensitivities: Japanese researchers' contribution to gender and geography*, ed. K. Kumagai and Y. Yshida, 103-109. Tokyo: Ochanomizu University.

熊谷圭知 2014. 現代日本の社会経済的変化と男性/性の変化をめぐる試論—「場所」と「ホーム」の視点から. ジェンダー研究 18: 87-98.

Kumagai, K. and Yshida, Y. eds. 2014. *Building global networks through local sensitivities: Japanese researchers' contribution to gender and geography*. Tokyo: Ochanomizu University.

Kumagai, K. and Yoshida, Y. 2014. Introduction. In *Building global networks through local sensitivities: Japanese researchers' contribution to gender and geography*, ed. K. Kumagai and Y. Yshida, 1-7. Tokyo: Ochanomizu University.

Kumagai, K. 2014. A Sense of the local with gender sensitivity: Reflection on place and fudo (milieu) in Japan. In *Building global networks through local sensitivities: Japanese researchers' contribution to gender and geography*, ed. K. Kumagai and Y. Yshida, 111-126. Tokyo: Ochanomizu University.

- 小林加奈・若山沙織・三浦尚子 2014. こちら院生室 第32回 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科. 地図中心 503: 36-37.
- 佐伯英恵 2014. 祭りと言と身体ー陸前高田の七夕祭の風景と共同性の生成. お茶の水地理 53: 20-30.
- 佐藤香寿実 2014. フランス, アルザス地方におけるイスラム空間の創出ーストラスブール・大モスク建設を事例に. お茶の水女子大学グローバル協力センター『平成26年度 平和構築分野における国際調査報告書; 女子教育・基礎教育分野における国際調査報告書』33-44.
- 谷口博香 2014. 「外国につながる」子どもにとっての“Place”ー東京都板橋区の多文化共生政策と学習支援活動におけるフィールドワークから. お茶の水地理 53: 1-10.
- 中村雪子 2015. インドにおける女性酪農協同組合をめぐる政策と言説の変遷ージェンダーと開発の視点からの批判的検討. 人間文化創成科学論叢 17 (印刷中).
- Nakamura, Y. 2014. Women's participation and new democratic spaces of dairy cooperative organizations: Multi-scale perspectives in Rajasthan, India. In *Building global networks through local sensitivities: Japanese researchers' contribution to gender and geography*, ed. K. Kumagai and Y. Yshida, 77-90. Tokyo: Ochanomizu University.
- 長谷川直子 2015. 日本陸水学会東海支部編: 身近な水の環境科学 [実習・測定編]ー自然のしくみを調べるために. 地理学評論 88: 177-178.
- 丸本美紀 2014. 奈良盆地と京都盆地における水文気候学的特性の比較ーソーンズウェイト法による年候解析. 季刊地理学 66: 82-93.
- 水野 勲 2014. 地名と事態名ー原発事故後の「福島」の地理的スケール. 歴史と地理 678: 9-17.
- Mizuno, I. 2015. Politics of space by place names in an uncertain world: Scales of geography and situation after "Fukushima". *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University* 50: 19-28.
- 宮澤 仁 2015. 大都市圏郊外の高齢化とまちづくりの課題. 日野正輝・香川貴志編『変わりゆく日本の大都市圏ーポスト成長社会における都市のかたち』179-196, ナカニシヤ出版.
- Miyazawa, H. 2015. Establishment of small-scale multifunctional in-home nursing care and facility locations: The case of Nagasaki City. *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University* 50: 55-63.
- 森田枝里子 2014. 忽那諸島 陸月島における高齢者サポートに関する一考察. 平岡昭利・須山 聡・宮内久光 編著『離島研究V』83-95, 海青社.
- Li, M. 2014. Meeting prince black horse: Sexing nationality and practicing masculinity in Shenzhen Chinese folk culture village, China. In *Building global networks through local sensitivities: Japanese researchers' contribution to gender and geography*, ed. K. Kumagai and Y. Yshida, 43-56. Tokyo: Ochanomizu University.
- 口頭発表・講演・ポスターセッション
- 及川裕子 2015. 都市空間とアートー東京文化発信プロジェクトを事例に. 裏公共圏研究会 (成城大学).
- 小川杏子 2015. 保養参加者の「日常」における福島第一原発事故後と放射能汚染ー川崎における「保養」の取り組みを事例に. 日本地理学会2015年春季学術大会 (日本大学).
- Oda, T., Mizuno, I. and Hasegawa, N. 2014. Displacement, relocation, and the spatial change in livelihood among survivors of the 3/11 Fukushima disaster. *The Annual Meeting of the Association of American Geographers* (Tampa, Florida).
- 熊谷圭知 2015. 場所論再々考ーハーヴェイ, マッシーの近著の検討を軸に. 日本地理学会2015年春季学術大会 (日本大学).
- 久島桃代 2015. 日本の過疎山村に移住する若い女性たちの経験. 国際ジェンダー学会「開発とジェンダー」分科会第5回定例会 (お茶の水女子大学).
- 戸田真夏・長谷川直子・大八木英夫 2014. 大学生の国内旅行と旅行情報源 (1)ー男女差の視点から. 2014年日本地理学会秋季学術大会 (富山大学).
- 中井 瞳 2015. 高齢者を「呼び寄せる」街 横浜市都筑区. 日本地理教育学会全国地理学専攻学生卒業論文発表大会 (東京学芸大学).
- 長谷川直子・横山俊一 2014. 一般向けの地理教養向上の手段としての旅行ガイドブック活用の可能性について. 2014年度日本地理教育学会第64回大会 (横浜国立大学).
- 長谷川直子・横山俊一 2015. ジオグラフィーコミュニケーターとアウトリーチ地理学の提案. 2015年日本地理学会春季学術大会 (日本大学).
- Marumoto, M. and Fukuoka, Y. 2014. The secular and spatial changes of paleoclimatic disasters from A.D. 601 to A.D. 1200: A comparative study in Nara and Kyoto. 2014年日本地理学会秋季学術大会 (富山大学).
- 丸本美紀・福岡義隆 2014. A.D. 601年~1200年における

- 奈良－京都盆地の水災害と Thornthwaite 法による気候学的水収支の考察. 第61回気候影響・利用研究会 (日本大学).
- Marumoto, M. and Fukuoka, Y. 2015. The database of climatic disasters from A. D. 601 to A. D. 1200. *4th Asia 2k Workshop in Kyoto* (Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto).
- 丸本美紀・福岡義隆 2015. 奈良と京都における601年～1200年の気候災害－気象史料からの復元. 2015年日本地理学会春季学術大会 気候と災害の歴史研究グループ (日本大学).
- 水野 勲 2015. 固有名による区別と指示－福島第一原発事故の地理的帰結. 空間の理論研究会 (首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス).
- 三原昌巳 2014. 明治期以降から現在までの福島県における県立・公立病院の立地と医療圏の構築. 日本地理教育学会第64回大会 (横浜国立大学).
- Mihara, A. 2014. Changes in the geographical distribution of health services in Fukushima Prefecture from Meiji era to today. 第9回韓中日地理学会議 (釜山).
- 宮澤 仁 2014. GISによる福祉の地域分析. 東京大学地域看護学教室研究会 (東京大学).
- 横山俊一・長谷川直子・谷口智雅 2014. 東京都を対象とした旅行ガイドブックの地域的特徴について. 2014年日本地理学会秋季学術大会 (富山大学).
- 横山俊一・長谷川直子・谷口智雅 2015. 旅行ガイドブックの出版数と観光客数の地域的特徴について. 2015年日本地理学会春季学術大会 (日本大学).
- 米田美音 2015. 岡山県における原発自主避難者と地元住民のコンフリクトー公立小・中学校の学校給食を事例に. 日本地理教育学会全国地理学専攻学生卒業論文発表大会 (東京学芸大学).